サンフランシスコ出張報告

（2024年10月21日～25日）

出張の概要

■日程

2024年10月21日（月）～10月25日（金）

■目的地

アメリカ合衆国（サンフランシスコ）

■出張者

宮坂副知事、政策企画局職員、スタートアップ・国際金融都市戦略室職員

■目的

- 世界一のスタートアップ都市東京の実現を目指す都の取組を世界に戦略的に発信するため、世界経済フォーラムとサンフランシスコ市が共同で開催する国際会議「都市変革サミット2024」に参加、登壇等をすることで、世界中のリーダーが集まる場において、都の取組のPRや海外諸都市との連携を強化する。
- 併せて、東京のスタートアップ・エコシステムの進化・グローバル化を図るために、スタートアップ支援拠点等を視察する。

■訪問先

・世界経済フォーラム主催「都市変革サミット」

・Japan Innovation Campus

・スタンフォード大学

・Waymoロボタクシーデポ

世界経済フォーラム 都市変革サミット

（Urban Transformation Summit 2024）

世界経済フォーラム 都市変革サミット(Urban Transformation Summit)

■会議概要

世界経済フォーラムがサンフランシスコ市と共催で開催。都市開発の革新的なソリューションのパイオニアとなることを目指す関係者を一同に会し、世界の都市が直面する喫緊の課題に対処するための議論を深め、連携を育むことを目的とする。

■開催日時

2024年10月21日（月）～23日（水）

■参加者

約250名（世界89都市、民間事業者、非営利セクターの代表者等）

【主な出席者】 サンフランシスコ市長、サウジアラビア観光大臣、南アフリカ住宅担当大臣

■主要テーマ

①持続可能な都市再開発
②自然調和型インフラ整備
③都市再生とイノベーション・エコシステムの構築
④都市のための革新的な資金調達アプローチ
⑤モビリティの変革
⑥包括的な経済成長とアフォーダビリティ

10/23 登壇セッションの概要

■日時

2024年10月23日（水）9:00-9:45

■テーマ

「Accelerating Urban Innovation/都市イノベーションの加速」

イノベーションと経済発展の中心地である都市は、さまざまな地域に持続可能な開発を推進する可能性を秘めています。現在、世界人口の 55% が都市部に居住しており、この数字は 2050 年までに 70% 近くまで上昇すると予想されています。都市の可能性はかつてないほど高まっており、その必要性はより緊急になっています。さまざまな関係者が協力してこの可能性を活用し、拡大するとともに、都市化の大きな課題に対処し、都市が強靭で包摂的な状態を維持できるようにするにはどうすればよいでしょうか。

■会議形式

パネルディスカッション　※オーディエンスはシアター形式で100名程度

■会場

世界経済フォーラムサンフランシスコ事務所講堂（1202 Ralston Avenue, San Francisco, CA 94129, located in Presidio National Park）

■登壇者

Manabu Miyasaka
Vice-Governor of Tokyo, Tokyo Metropolitan Government

Deng Honghao
Chief Executive Officer, Butlr Technologies

Kimberly Norton
Mayor, City of Rochester

Kwasi Mitchell
US Chief Purpose and Diversity, Equity and Inclusion Officer and Global Chief Sustainability Officer, Deloitte

Moderated by

Carlota Rebelo
Senior Foreign Correspondent, Monocle

セッションのポイント　10/23 Accelerating Urban Innovation

【東京都副知事・宮坂学】

- 都では**SUフレンドリーな都市の実現**に向けた取組としてSusHi Tech Tokyoを推進している。**都市に人口が集中して生じる様々な課題に対し、SUのテクノロジーによる解決**を目指している。
- SusHi Tech Tokyoはより良い未来に向けて、**国内外を問わずSU関係者が連携**することを目指している。**5月のイベントには、海外からの参加者も歓迎**する。
- 官民連携を進めるうえで、都では例えば**SUからの公共調達の推進**を行っている。また、関係者が集まれる**コミュニティハブ施設としてTIBを設けた。**
- 世界的な都市課題を解決するためには、**ゲームチェンジャーとして変化をもたらすことのできる起業家の活躍が重要。**政府機関としては、彼らが活躍できるプラットフォームを用意することが大切。

セッションのポイント　10/23 Accelerating Urban Innovation

【Honghao Deng　ホンハオ・デン　Butlr Technologies CEO兼共同創設者】

- 都市課題に取り組むうえで、官民連携は民間企業にとっても大切。**官民連携によって、財政サポートを受けたり、実証実験の場を得たり、広く技術を使ってもらったり可能性が広がる**。ノウハウを共有し、互いの強みを活かすこともできる。
- 都市課題に取り組む際に、**限られたリソースを効率的に活用することは重要**。そのためには**データから正しい情報を得ることが大切**。

【Kimberly Norton　キンバリー・ノートン　ミネソタ州ロチェスター市長】

- **社会やテクノロジーは日々変化しているので、官民連携は重要**であり、互いにコミュニケーションをとる必要がある。ロチェスター市では、定例会を開いている。
- 政府機関としては、**変化を恐れず、自身も将来に向けて変わっていくべき**。

【Kwasi Mitchell　クワシ・ミッチェル　デロイト 米国チーフパーパス＆ダイバーシティ＆インクルージョンオフィサー兼グローバルチーフサステナビリティオフィサー】

- コミュニティレベルの都市課題について、国境を越えて連携したり、グローバルに対応することは難しい。まずは、**都市課題についてきちんと理解し、各地でどんなことが起きているかを学ばなければならない**。
- **イノベーションを進めるうえで、地方自治体の関与は不可欠**。個々の取組ではなく、まとまった取組を進めることが効果的。

スタートアップ支援拠点の視察等

Japan Innovation Campus（JIC)訪問

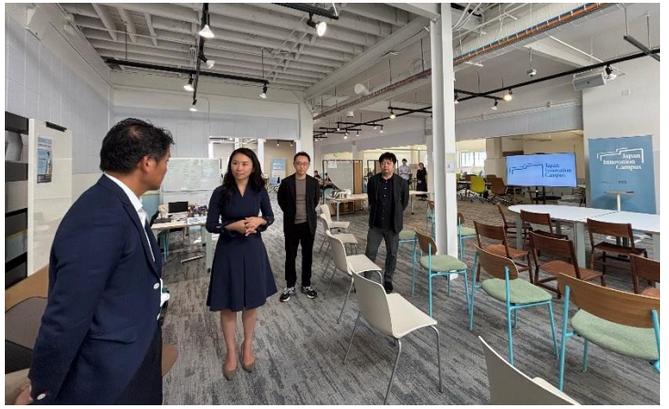
■日時

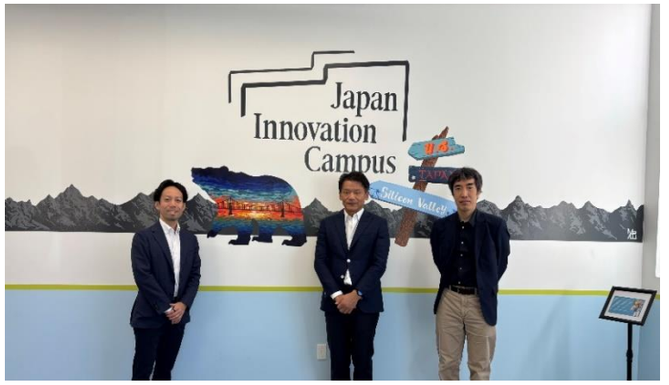
2024年10月22日（水）11:30-13:30

■内容

シリコンバレーのエコシステムプレイヤー（SU、アクセラレーター等）との交流

11:30～12:00	施設概要説明・見学
12:00～13:00	ランチミーティング - 30～40名程が参加し、３社からプレゼンテーション - 宮坂副知事はSusHi TechやTIB等の都のSU施策を紹介
13:00～13:30	ネットワーキング





■JICの概要

- シリコンバレーに進出している日本のSUの成長を後押しするため、2023年に経済産業省が設置したイノベーション拠点。企画・運営は森ビルが担当。
- 40席程度のコワーキングスペース、30～50人程度のイベントスペース、オフィススペース６部屋を設置。
- ビジネスパートナーとのマッチングやメンバー同士のオンラインコミュニティの運営など、コミュニティ醸成に向けた取組を行っている。

副知事プレゼンテーション　10/22 Japan Innovation Campus

- 2022年末、東京都は80年の都政史上初となるスタートアップ戦略「**Global Innovation with STARTUPS 」を策定**し、**2027年までにスタートアップの数、グローバルユニコーンの数、官民協働の実践の数を10倍にする「東京の10×10×10イノベーション・ビジョン**」を打ち出した。
- 東京はFotune500の大企業が多く、また、東京圏としての人口も多いため、**ビジネスとしてのポテンシャルは非常に高い。**安全でおいしいご飯を食べることができるといった**生活しやすい街。**
- **Tokyo Innovation Baseは世界中のイノベーションのNODE**を目指す大規模なグローバル・ハブ。**アジアのゲートウェイとして、世界各都市の拠点と連携**することで、エコシステムをつなぐハブにもなる。
- グローバルイノベーションカンファレンスである「**Sushi Tech Tokyo」は世界の都市の共通の課題を最先端テクノロジーとオープンイノベーションで解決することを目指している。** 来年は、Sushi Tech Tokyo2025が５月８日～10日の３日間で実施。
- **スタートアップエコシステムのさらなる発展に向けてシリコンバレーにいる皆さんとも力を合わせていきたい。**

スタンフォード大学訪問

■日時

2024年10月22日（水）14:00-17:00

■面会者

- **アジア太平洋研究センター(the Shorenstein Asia-Pacific Research Center)※**
  筒井清輝教授　Senior Fellow in Japanese Studies, the Shorenstein APARC

【意見交換の内容】

- アカデミアと行政の人材交流
- シリコンバレーにおける日本のスタートアップのプレゼンス向上

※アジア太平洋地域に関する現代的な研究、教育、政策提言の拠点。1983年に設立され、アジア諸国およびその地域的・国際的な関係に影響を与える重要な問題を研究している。また、多くの公開プログラムや国際協力を通じて、学術界、ビジネス界、政府、民間セクターのリーダーたちが集まり、現代アジアに関する重要な問題について議論する場を提供している。

- **アメリカ・アジア技術経営センター**
  Dr. Richard Dasher　Director of the US-Asia Technology Management Center

【意見交換の内容】

- アメリカから見た東京のスタートアップエコシステムの状況
- 行政サービスにおけるイノベーションの創出
- 東京における外国人ビジネスパーソンの就業環境

Waymoロボタクシー試乗・意見交換

■日時

2024年10月23日（木）15:00-17:30

■Waymoの概要

- Alphabet傘下の自動運転車開発企業で、2016年12月13日にGoogleの自動運転車開発部門が分社化して誕生。Waymoという名称は “a new way forward in mobility.”（モビリティの新たな進むべき道）に由来。
- 現在、自動運転タクシー「Waymo One」を、アリゾナ州フェニックス・カリフォルニア州ロサンゼルス/サンフランシスコにて商業運用中（SFで300台）。テキサス州オースティンでもサービスを開始予定。

■意見交換の概要

- **40のセンサー、29のカメラ、6のレーダー、5のライダー(LiDAR)、360° の集音マイクロフォン**を搭載。**建物はGoogleマップのデータ、道路状況はリアルタイムデータ**を取得。
- Waymoの車両は360度見ることができるので、**人間よりも85パーセント事故が少ない。**
- **カリフォルニア州、アリゾナ州では警察官にロボタクシーの仕組みを説明。**地元住民の中にも初めは懐疑的な人もいたが、**時間をかけて少しずつ慣れていき、今では多くの人に受け入れられている。**
- 現在**全米で700台走行、今後商用化するアトランタはUberで呼べる**ようにする。フリーウェイは事故時の危険性がありまだ走らせていないが、ユーザーのリクエストが高い。

ロボタクシー試乗の様子

まとめ

出張のインサイト

都市間の知恵の共有

- 今後世界の人口の約7割が都市に住むと言われており、**持続可能な未来をつくるためには国境を越えた都市間の共創の輪を広げていくことが重要。**
- 世界に誇るインフラ技術など東京の強みを海外に積極的に発信することに加え、**海外諸都市のベンチマークとなる取組を貪欲に学ぶことが必要。**
- SusHi Tech TokyoやG-NETSのネットワークを世界中に広げることで、**東京が都市間連携のイニシアティブを発揮することが肝要。**

イノベーション創出における行政の役割

- これからのイノベーションには**単に人々の生活を便利するだけではなく、人々の心の豊かさを実現するという視点が重要。**
- そのためにも**行政の役割がますます重要**となり、いかに**政策に新しいテクノロジーを取り入れられるかが鍵となる。**